

流通経済大学

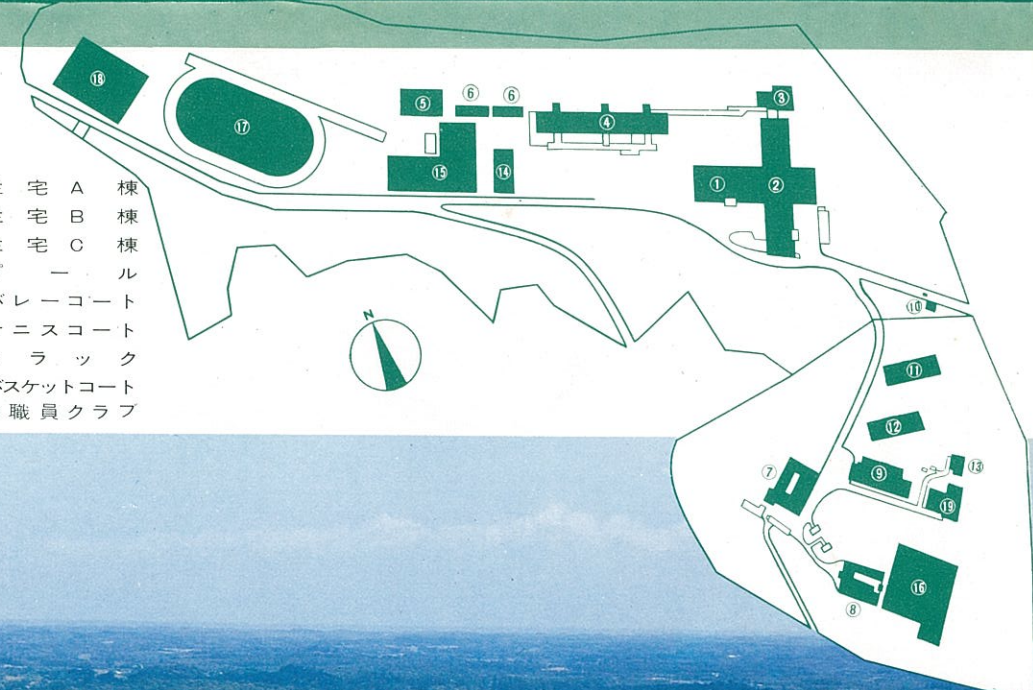


1968

本学の環境

本学は都心を離れて、将来建設される筑波学園都市のなかでも最も東京都に近い龍ヶ崎市の静かな田園と緑の松林に囲まれた小高い丘の上にある。周囲の環境に調和した校舎の屋上からは、遠く麗峰富士、近くは紫峯筑波を望むことができる。田園の中にある本学において自然林が小鳥を呼び、四季の推移を伝え憩いの場を与えてくれる。この明るい自然に抱かれて、学生はのびのびと勉学に思索にまた散策に、いそしむことができるのである。本学を訪れる人々は異口同音にめぐまれた環境であるとほめたたえている。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 管 理 棟 | 11 住 宅 A 棟 |
| 2 研 究 棟 A 館 | 12 住 宅 B 棟 |
| 3 図 書 館 | 13 住 宅 C 棟 |
| 4 講 義 棟 B 館 | 14 プ ー ル |
| 5 武 道 場 | 15 バレ ー コ ー ト |
| 6 部 室 | 16 テニスコート |
| 7 学 生 寮 第 1 寮 | 17 ト ラ ッ ク |
| 8 学 生 寮 第 2 寮 | 18 バスケットコート |
| 9 食 堂 | 19 教 職 員 ク ラ ブ |
| 10 守 衛 所 | |



保 險 論	經博 早大教授	葛 城 照 三
包 装 論	日本包装技術協会常務理事	向 野 元 生
倉 庫 論	千葉大 講 師	向 井 梅 次
荷 役 論	愛知学院大教授	平 原 直
金 融 論	荷役研究所長 神奈川大講師	天 利 長 三
銀 行 論	經博 東京都立大教授	講 師 速 水 保
貿 易 論		早大教授 田 中 喜 助
経 済 地 理	經博 助 教 授	板 倉 勝 高
産業立地論	理博 駒大教授	西 水 孜 郎
地域開発論	理博 駒大教授	西 水 孜 郎
経営管理論	助 教 授	長 島 賢 二
労務管理論	助 教 授	長 島 賢 二
財務管理論	茨大助教授	村 松 司 叙
簿記原理 I	講 師	加 古 宜 士
簿記原理 II	講 師	矢 沢 秀 雄
会 計 学	講 師	加 古 宜 士
管理会計	講 師	矢 沢 秀 雄
原価計算	商博 教 授	中 島 勇 次
憲 法	講 師	熊 田 道 彦
行 政 法	助 教 授	桜 井 昭 平
民 法 I	助 教 授	佐 伯 弘 治
民 法 II	助 教 授	佐 伯 弘 治
商 法 I	法博 駒大教授	野 津 務
商 法 II	法博 駒大教授	野 津 務
労 働 法	講 師	前 田 政 宏
政治学原論	講 師	森 尾 忠 憲

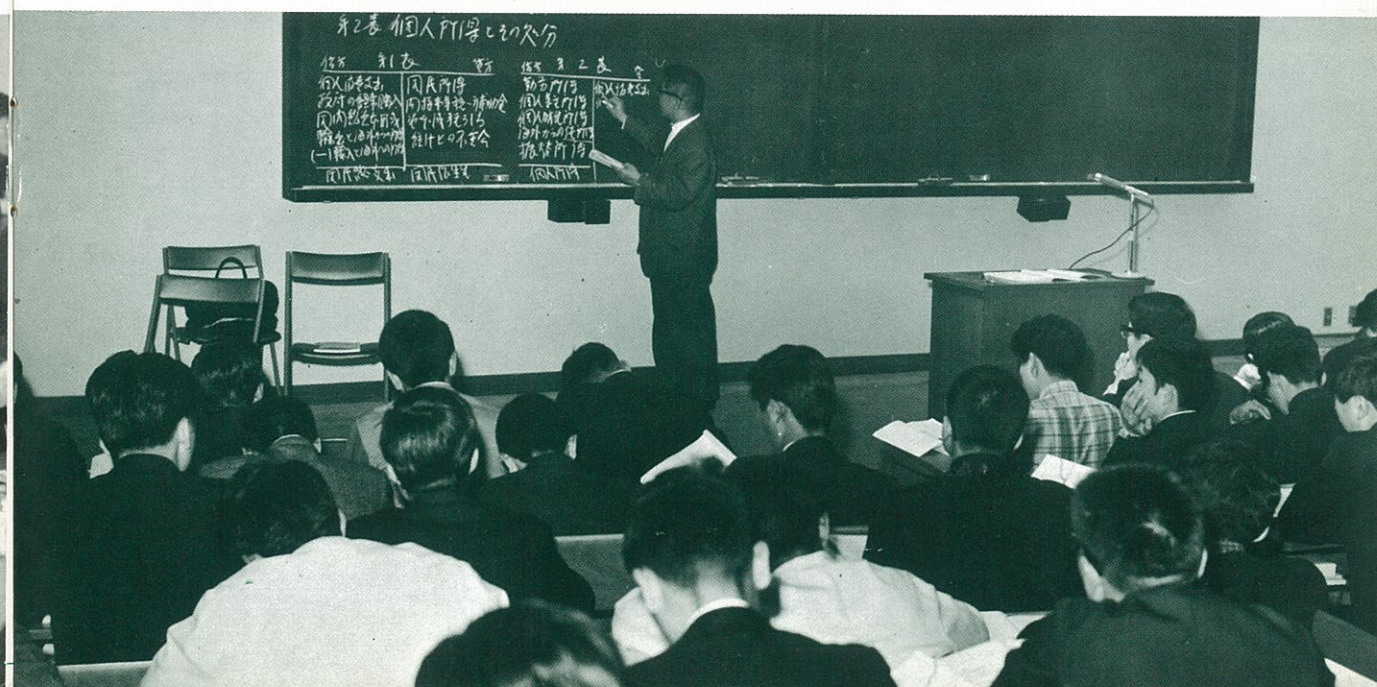
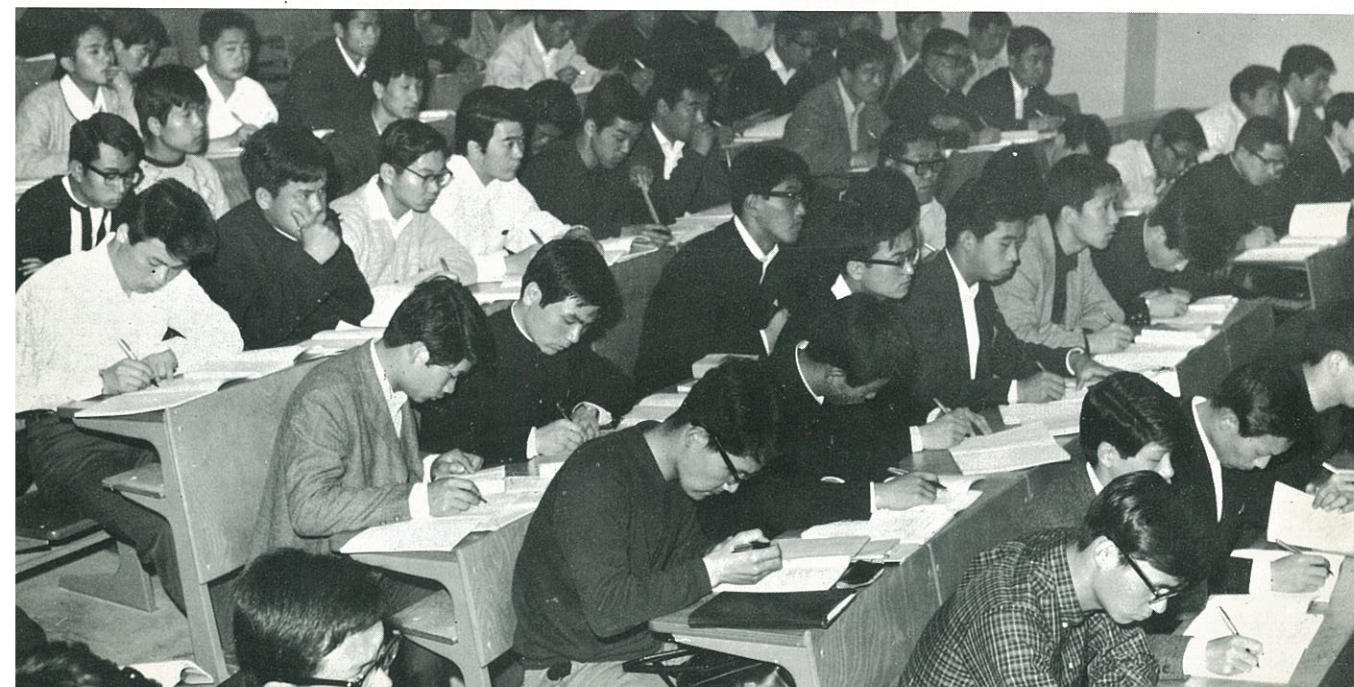
教職課程

卒業後教員を志願する者のために、教職課程が設けられている。大学卒業に必要な科目のほかに、教育職員免許法に定められた、教職ならびに教科に関する専門科目を修得すれば、卒業と同時に次の普通免許状を取得できる。

中学校社会科教諭一級 高等学校社会科教諭二級 高等学校商業科教諭二級

講義担当教員

日本史概説 (4)	助教授 小山田義夫	教育原理 (4)	講 師 長 田 三 男
外国史概説 (4)	教 授 荻 野 博	教育心理学 (4)	教 授 赤 松 保 羅
地理学概説 (4)	經博助教授 板 倉 勝 高	社会科教育法(4)	茨大教授 満 井 隆 行
地 誌 (2)	經博助教授 板 倉 勝 高	商業科教育法(4)	茨大教授 桐 田 尚 作
倫理学概論 (4)	助教授 赤 繁 義 樹	道德教育の研究(2)	講 師 長 田 三 男
職業指導 (4)	茨大教授 阿久井喜三郎		





図書館長 赤 松 保 羅

図書館

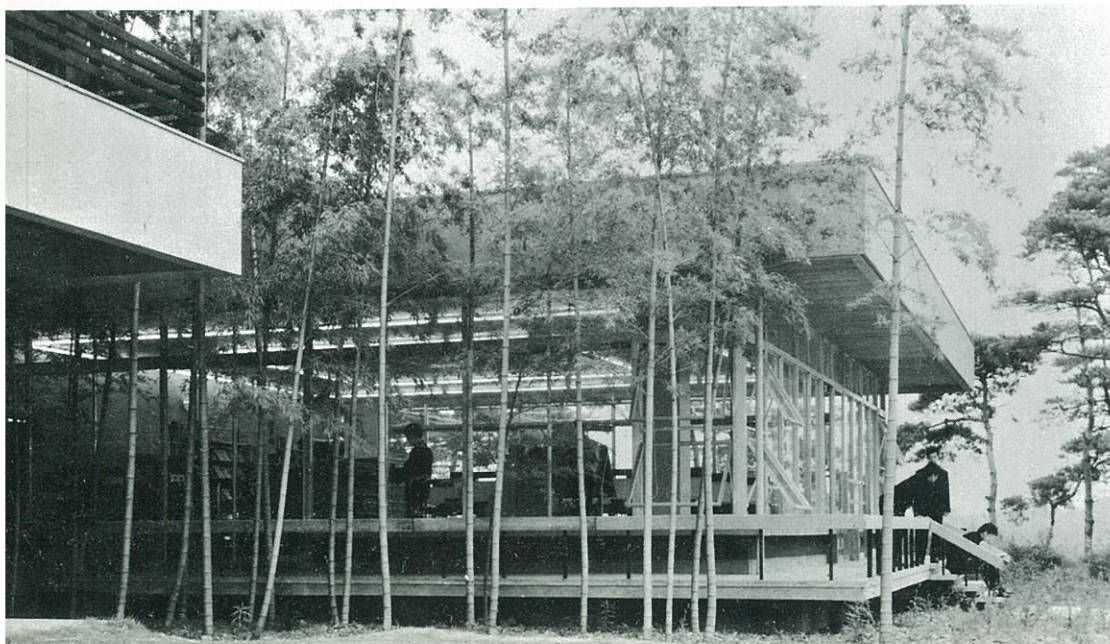
研究棟の北側に設けられ、現在約30,000冊を超える図書と、300種におよぶ和洋雑誌が収蔵されている。主に経済関係の図書が重点的に収集されていることは勿論であるが、なかんずく本学の特色である流通経済関係の図書、資料の充実に意を注いでいる。

閲覧室は松林と竹林に囲まれた静かな環境に恵まれており、開架式閲覧制度を採用し、学習に必要な辞典、年鑑等のほか学生参考図書約3,000冊を自由に手にとって閲覧できるよう配慮している。

また別に特殊文庫として渋沢文庫がある。これは渋沢栄一氏旧蔵の青淵文庫と、嫡孫敬三氏が収集された常民文化に関する資料約20,000冊からなっており、いずれも学界で高く評価されている貴重な資料である。

流通経済大学学術研究会

本学は開学日なお浅いが、流通経済に直接間接に関連する諸分野の総合的研究を行ない、他面斯学の発展と普及に貢献するために昭和40年12月全教員を会員として、この研究会を創設した。研究会は毎月一回研究会を開き会員の研究活動を盛んにするとともに研究業績を発表するために年4回機関誌「流通経済論集」を刊行し、また春秋二回講演会を開催している。



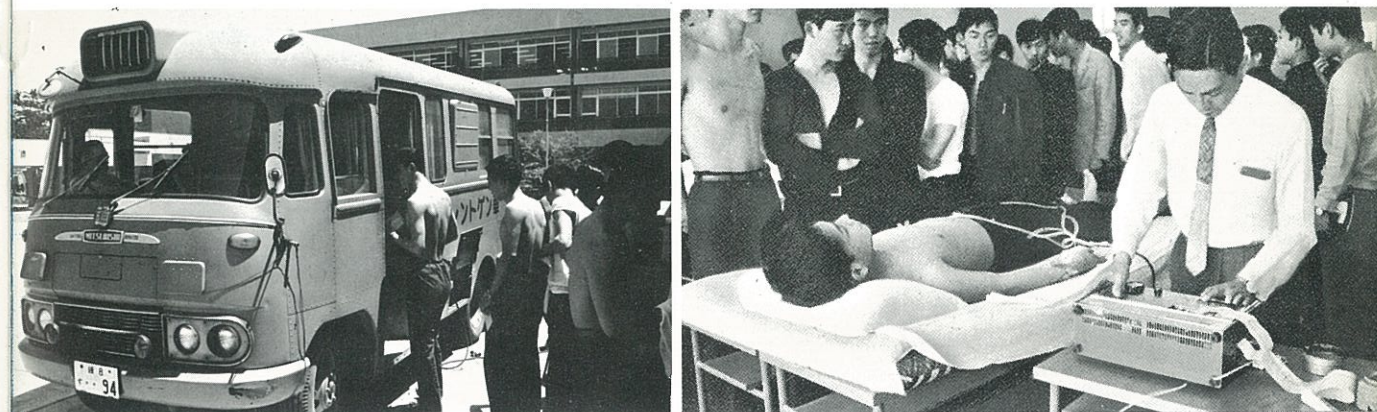


学生部長 荻 野 博

学生部

■学生指導

学生指導については、「学生相談室」を設け、個々の学生の生活全般について、相談に応じている。そのほか20～30名の学生からなるルームを編成し、各ルームに1名の指導教員をつけて、学習および学生生活全般について、きめの細かい個人指導を行なっている。



■奨学制度

人物、学業、身体ともに優秀であって、学費の支弁が困難と認められる学生に対して、次のような奨学制度があつて、採用された学生には、毎月一定額の学資が貸与される。

日通奨学金

日本通運株式会社が設定している奨学制度で月3,000円～4,000円が貸与される。本学から40年度10名、41年度21名、42年度33名が貸与された。

日本育英会奨学金

修学期間中、月額3,000円、特別貸与奨学生に対しては月額7,500円～12,000円が貸与される。本学から41年度34名、42年度46名が貸与された。

■学生アルバイト

勉学を続けるためにアルバイトを必要とする学生に対し、学業に支障のない限り適当なアルバイトを斡旋している。



■下宿の斡旋

遠隔地出身者で学寮にはいれなかったものには、下宿を斡旋する。そのため常に、下宿の開拓を行ない、その確保に努めている。

■学生食堂

学生の便宜を図るために、学生食堂を設け栄養士により、安くでカロリーのある食事を提供しており、また日用品の販売も行っている。

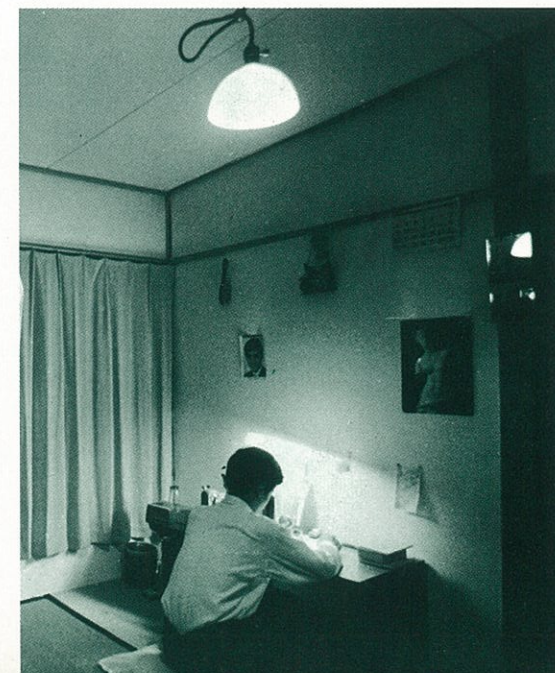


■学寮

学寮は教育の一環として、共同生活を通じて自主自立と友情の精神を体得させ、人格の陶冶に資することを目的とし、あわせて学生の勉学と生活の便宜をはかるため、設けられている。

寮生は1室2名（約100名）で寮監指導のもとに、家庭的な雰囲気の中で明るい自由な寮生活を楽しんでいる。また6月に恒例の学寮祭が催され、若いエネルギーを発散させる多彩な行事がくりひろげられる。

昭和43年度はさらに約100名を収容する寮舎が設けられる予定である。完成の暁にはいま以上の完備した学寮になるであろう。



課外活動

学生生活をより豊かにするために、本学教育の一環として、学生の課外活動が活発に行なわれるよう奨励している。

また学生会が組織されており、学生の自治活動の中心となって活動しているほか、大学祭、体育祭などの行事を主催している。さらにその下部機構として各種クラブが活発な活動をしている。

新聞局

応援団局

文化局

日本経済研究会、広告研究会、流通サークル、経営経済研究会、語学研究会、流通経済研究会、芸術部、マンガ同好会、

その他同好会約10

体育局

合気道部、柔道部、軟式庭球部、自動車部、空手道部、弓道部、ラグビー部、

その他同好会約15

就職指導

本学は、昭和40年に開学したばかりなので、まだ卒業生を出していないが、来る昭和44年3月には第一回の卒業生を社会に送り出そうとしている。しかしすでに数社の会社から推薦の依頼を受けており、前途はまことに有望である。

本学の卒業生は、経済学部経済学科の課程を修得する学生であるが、とくに流通経済に関する学科目の修得に努力し、各企業が現在当面している流通経済の諸問題解決に適切に寄与しうる高度な能力をかん養することに努めている。

今回新しく就職指導を目的として「就職懇談会」を設けて基本方針を審議するとともに、個人面接、説明会、実習指導ならびに企業見学の実施など、万全の対策を立てつつ、100%就職に向って努力している。

